

「年賦課金等の改定等」に寄せられた  
パブリック・コメントの結果について

本所では、年賦課金等の改定等について、その要綱を本年6月11日に公表し、7月9日までの間、広く意見の募集を行い、その結果2件のコメントが寄せられました。

本件に関してお寄せいただいたコメントの概要及びそれに対する本所の考え方は以下のとおりです。

コメントの概要	コメントに対する考え方
<p><b>【コメント1】</b></p> <p>当社としては、以下の理由により今回の年賦課金の改定には反対である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 過去5年の札証の収支計算書を見る限りでは、平成20年度を除いて一定の利益が出ている状況であり、経済が冷え込み、先行きの見えない今のタイミングでの大幅な値上げは、到底容認することはできない。札証にはまだ資産が残っている段階で、他者に身を切らせるのは筋が通らない。</li> <li>・ 札証としてセミナーの開催など、市場の活性化に向けた努力をしているようだが、例えば道内の未上場企業の上場促進など、営業努力の実態が見えない。</li> <li>・ 所有施設の活用、人件費、運営費のコスト圧縮等、更なる自助努力を求める。</li> </ul> <p><b>【コメント2】</b></p> <p>札証アンビシャス市場のメリットは、小規模企業でも、資本市場において資金調達ができ、上場後も低コストで上場を維持することができ、機動的な資本政策が遂行できることであると思いますが、</p>	<p>取引所は公平で透明性の高い市場運営を求められており、市場の信頼性、利便性の質をより高めていくためには、継続的な投資(人的・物的)を行いうる収益基盤を確立することが現下の課題と認識しております。</p> <p>こうした中であって、コスト削減に最大限努めることは当然であり、各種の新システム導入や業務の質的向上に伴う負担増の中で、人員削減を図ったほか日々のコスト圧縮に努めており、運営費などはほぼ横ばいの状態に保っております。</p> <p>一方、収益性を高めていくことも必要であり、売買代金の低迷や上場会社の減少をみているものの、他市場経由の企業を含めた上場の促進、遊休不動産の売却や資産の活用を図るなどの方策も講じております。</p> <p>ご提案いただきました貴重なご意見を改めて再検討させていただきました結果、アンビシャスにおきましては、市場コンセプトが成長企業のステップ市場という位置付けでもあることから、上場後(既に上場している企業は本規則施行後)3年間は軽減する措置を設けることを検討してお</p>

コメントの概要	コメントに対する考え方
<p>今回の年賦課金の額の変更における大幅な値上げは、他市場と比較しても金額的にそれほど大差なく、当社のような企業にとっては、そのメリットは薄くなります。</p> <p>また、一律60万円という改正は、金額の根拠もなく安易であり、新興市場のメリットを失うものであると考えております。当社といたしましては、年賦課金の値上げは見合せていただくことを要望します。もしくは、一律を取りやめ、新興市場に上場する企業には年賦課金を軽減（改正後賦課金の1/2以下）すべきであると考えます。</p> <p>ご検討のほど何卒よろしく願いいたします。</p>	<p>ります。</p> <p>今般の改正は短期的な取引所の収支改善を主眼に置いているものではなく、公共性の高い機関として時代に相応した体制構築をはかり、持続可能な取引所運営を行うため、応分の負担をお願いするものです。</p> <p>札幌証券取引所といたしましては、今後も「北海道資本市場会議」での議論をはじめ、広く皆様方からご意見やご協力をいただきながら、取引所機能の充実に努めてまいり所存でございますので、本趣旨をご理解いただきますようお願いいたします。</p>

以 上